



digitalis

10mg.

裕弥

僕は、きみのために
なにかできたかな？

カメレオン

僕は嘘つきカメレオン
自分を守る嘘を吐く

僕は弱虫カメレオン
本音は怖くて言えません

僕は七色カメレオン
他人に合わせて顔色変えて

僕は道化のカメレオン
笑顔でその場をやり過ごす

僕は哀しいカメレオン
本当の自分を忘れた愚か者

僕は嘘吐きカメレオン
愛する君にも嘘を吐く

僕は弱虫カメレオン
君への想いに蓋をする

僕は哀しいカメレオン
君に恋したカメレオン

思い出巡り、君巡り。季節と共に繰り返す。

廃校になった僕らの学校
桜吹雪の舞い散る中で僕らは初めて出逢った
君はまだ髪が短くて
僕はまだ君より背が低かった

森の奥の小さな湖
緑が繁る木漏れ日の下、足を濡らして笑った
君はまだ日に焼けてなくて
僕はまだ声が変わる前だった

畦道の脇の寂れたバス停
少し寒い木枯らしの中、日が暮れても一緒だった
君はまだセーラー服を着ていて
僕はまだ君の手も握れなかった

少し遠い大きな病院
四角い君の病室から静かに雪が舞うのが見えた
君はまだ好きだとは言わなくて
僕はまだ好きだとは言えなくて

小高い丘に佇む墓標
「桜吹雪があの日みたいだ」僕は独り呟いた
君はさいごまで好きだとは言わなくて
僕もさいごまで好きだとは言えなくて

僕の世界<崩壊>

僕の世界から君が消えたあの日、
僕も一緒に消えてしまったんだとばかり思ってた。
君が居ない僕の世界は意味がないから。

真っ暗な世界、膝を抱えて泣いていた。
僕はまだ、ここに居た。

僕の世界から君が消えたあの日、
僕も一緒に消えてしまいたかったんだ。
君が居ないなら僕がいる意味がないから。

君が居ないこの場所に、
僕はどうしてまだ居るのだろう。

どうして君が消えたあの日、
僕も一緒に消えなかったんだらう。
それだけが僕の不思議で、理解できない。
君が消えたあの日、
世界も一緒に消えてしまったんだと思っていたのに。

君が居ないこの場所で、
僕はどうしてまだ生きているのだろう。

悲劇

さあ、踊れ

軋んだ指揮者がタクトを振るう
壊れた枢のカーニバル

絡んだ糸が腕を曳きつけ
いかれた人形のしけた演劇
笑いたい程の悲劇をどうぞ

復讐、野望、怨恨、嫉妬
材料だけは人一倍に

歌声は悲鳴に、台詞は涙に、
煌びやかな劇場で
ヴィオラの音色を響かせて

汚れた文字のシノブシス
擦れたト書きは叫びに変わる

どうにもならない悲しみだけが
音符になって楽譜を埋める

さあ、踊れ
歪んだ愛の戯曲をどうぞ

Butter-Fry

怪獣アニメのオープニング

傷だらけのサッカーボール

三角形の面積の公式

明日の給食冷凍蜜柑

皆読んでた漫画雑誌

何もかもが遠い思い出の中

鮮やかに輝いてる

あの頃の君の好きだったもの

僕も好きだった

digitalis 10mg.

<http://p.booklog.jp/book/40095>

著者：裕弥

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/ky1109/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/40095>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/40095>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.